

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成21年1月27日(火)

2 出席委員(6名)

委員長 山下 政樹

副委員長 堀内 富久

委員 深沢登志夫 皆川 巖 鈴木 幹夫 樋口 雄一

欠 席 白壁 賢一 仁ノ平尚子

地元議員 土屋 直(甲府市)

清水 武則(韮崎市)

3 調査先及び調査内容

(1) 【県営住宅千塚北団地】

県営住宅千塚北団地建替事業について、自治会集会施設において説明を受けた後、現地の視察を行った。

質疑については、現地を視察しながら行った。



(2) 【葦崎市穂坂地内森林整備事業】

調査内容(主な質疑)

問) この事業に県がいくらか補助金を出しているのか。

答) この事業については、国が51%、県が17%、事業主体である市が32%という費用負担の割合となっている。

問) 資料の2ページに書いてある森林整備事業の概要の中で、この事業はどれに該当するのか。

答) 一番下から2つ目の欄に、「居住地森林環境整備」という欄があるが、この事業で実施している。

問) 先ほど将来的には遊歩道にかえていきたいという話があったが、補助金の使途の変更については、織り込み済みということか。

答) この事業については、景観も考えながら整備するとか、人びとが森林との触れ合いをするということも想定しながら進める事業であるので、今おっしゃたようなことについては当然それなりに配慮することになる。

問) 作業路の幅員は2メートルぐらいということが、だいたい幾らぐらいかかるのか。

答) 簡易作業路ということで、幅員は2メートルぐらい、コンクリート構造物等はいれない、側溝もつからないという作業路で、1メートル当たり5,000円前後で計画している。

問) そうすると、あとに残ったものが間伐等の費用になるということか。

答) この事業は間伐等の作業と作業路の開設の費用であるので、そのとおりである。

問) 出た間伐材の再利用はどうなっているか。

答) 間伐材については搬出し、売却するなどして利用することを計画している。

答) この地域は松くい虫が多いということで、松が枯れてしまう前に松の間伐をしてその利用をするということと、簡易作業路を入れてその材を利用するということを目的としたものである。

こちらの想定開設単価は1メートル当たり3,000円から8,000円であるが、今回は2,173円でできた。そのうち、主なものが土工費の約1,700円。それに、切った木を使って路体を確保するのにかけた費用、抜開や機械の運搬などの諸経費を合わせて1メートル当たり2,173円という出来高になっている。

問) どうして単価が安くできたのか。

答) 道を幅員2メートルから3メートル確保していく間に、たまに木があるので、その木を路体の確保に利用していった。それと側溝などを入れず、切り盛りが主体の道で、また木の間を抜けていくような感覚でやってきており、当初から詳細に設計された道ではなく、いずれ林地に戻るような道であるので、単価が安くできた。



蕪崎市役所で説明・質疑の後、蕪崎市穂坂の現地を視察した。